

広 報

ふじかわ

11月号

昭和56年11月20日発行

No. 244

町のメモ

昭和56年11月1日現在

人口	17,004人
増減	- 12人
男	8,433人
女	8,571人
世帯数	4,311世帯
面積	31.09km ²

富士川町 企画開発課



町の今年の目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

ねえ、おいしかった

(表紙の言葉は2ページに)

台所が火元

その大半は天ぷら火災

台所で火災発生——というと、そのほとんどがコンロです。火災件数を火原因別にみますと、最も多いのがたばこですが、コンロによるものは、たき火、火遊びに次いで、第四位を占めています。

さて、そのコンロによる火災ですが、意外に多いのが、天ぷらを揚げている最中になべに火が入り、周囲の物に燃え移るといふケースです。

台所を離れる時は必ずガスの栓を閉める

「天ぷら火災」はそのほとんどが、揚げている最中に、火をつけたまま「ちよつと台所を離れた」スキに起きています。もどった時には、なべの油が燃えていたり、その火が周りの物に移って、手がつけられない状態だった——体験者の多くは、こう話しています。

なぜ、揚げている最中に台所を離れたか、その「原因」をみてみますと——

油そのものが燃えるのではなく、油の蒸気が燃焼する

天ぷらなべに火が入る——といっても、ガスの火が直接なべの中の油に燃え移るのではないことは、いうまでもありません。では、なぜ「火が入る」のか、この点を具体的にみてみましょう。

たとえば、アルコールやガソリンが燃えるのは、それ自体が燃焼しているのではありません。アルコールやガソリンの蒸気が燃えているのです。専門用語では「蒸発燃焼」という言葉を使っています。天ぷら油に「火が入る」のは、一つには、この蒸発燃焼によ

ります。冬場は、どうしても揚げ物やいため物など、油を使った料理が多くなります。また12月ともなると何かにつけてあわただしく火を使っている途中に電話や来客の応対で台所を離れるといったことも、しばしば起こりがちです。

そこで今月は、冬の台所を中心とした「主婦のコーナー」を作ってみました。

▼訪ねてきた近所の人やセールスマンと話し込んでしまつて

▼ほかの家事をしていて、たとえ子どもが泣いたのでその世話をしていて

「天ぷら火災」は、このようなちよつとした心のスキから起こっています。

揚げ物をしていて台所を離れる時は、その都度、必ずガスの火を消すことを心掛けましょう。ほんのちよつとだからという「油断」は禁物です。

なべの中の油がこの温度に熱せられると、蒸発（気化）し始めます。この蒸気は、空気より重いためになべの下に流れ込み、ガスの火がついて油もろとも燃え上がるのです。「天ぷら火災」の大半はこの蒸発燃焼によるものといわれています。

また、なべが極端に過熱されると、中の油は自然に発火します。この時の温度を発火点といいますが、大豆油の場合摂氏四百四十六度です。——天ぷら油が温まるまでちよつとテレビを、などというのは文字どおり「火事のもと」です。主婦のみならず、くれぐれも注意して、おいしい料理を作りましょう。

せん。油そのものが酸化しやすいだけでなく、なべの鉄分、金属が油に溶けて酸化を早めます。熱いうちにこまめにこまめな油がさめると、こすのに時間がかかり、酸化しやすくなります。

また、揚げ物などをする時、油の温度をあまり上げすぎないようにすることも大切です。百八十度ぐらいが普通だといわれており、いわゆる煙が出るのは、温度が上がりすぎています。

保存は、きつちりフタのできるガラスビンに口いっぱいまで入れて流しの下や戸棚へ置き、窓越しに陽光が当たるようなところは避けましょう。

来賓のしるし

前日降り続いた雨も上がった11月3日、第二十七回目の町民文化祭が開かれた。今年、富士川町が明治34年1月に村から町になって、ちょうど八〇年目という記念の年のため、町立体育館前広場は早朝から黒山の人でにぎわい、おでん・お団子の店、焼鳥・生ビールの店などは終日盛況であった。

また、富士川町初代町長——常葉一郎氏の人形が玄関に立ち、来場者を出迎えている町立体育館の中では、芸能大会に先駆けて「町制施行八〇周年記念式典」が行われ、次の方々が表彰された。

- 頭功章 (敬称略)
 - 齋 武司
- 自治功勞
 - 佐野 喜平 天野 茂
- 治安維持功勞
 - 米倉 秀雄
- 交通安全功勞
 - 久保田為雄 長谷川悠治
- 多額寄付者
 - 野田 力三 花田 一
 - 常盤 憲衛 堀江 喜一
 - 宮石 久代

食用油の捨て方・使い方

今晚の夕食の献立は、野菜の天ぷらと魚のフライ。おいしくできあがってご満悦の主婦のみなさんところで使った油の後始末はどうしていますか。

「めんどろだわ——」と、台所の流しに捨てていませんか。そのまま捨てると、流し台の排水パイプを詰まらせたり、下水処理施設に負担をかけてしまえばかりか、河や海を汚すものになりかねません。使い終えた食用油の捨て方、効率のよい利用法をここで考えてみましょう。

◎排水パイプの詰まりは、油と食べ物

家庭で使う食用油は、大豆油となたね油がほとんどです。これらの油は、石油やガソリンなどの鉱

①ガスの栓を閉めましょう（温度を下げる）。

②ふたがある時は、なべを倒さないように気をつけ、炎に惑わされず正確にふたをします。

③ふたがない場合は、大きめの布をぬらして、手前からおおいかにふせます。

④野菜などを燃えているなべに入るのもよい方法ですが、その際あわてて投げ込んだり、水の

物油に比べて、その濃度はずっと低いので、油だけで排水パイプが詰まることはまずありません。水が流れなくなるほど排水パイプが詰まるのは、油と食べ物の残りカスなどがからまって、水の流れをストップさせてしまうからです。その結果、台所での調理に差しつかえるばかりか、パイプの修理のために思いがけない出費が生じることもなりかねません。パイプを詰まらせないために、また河川などを汚さないためにも油を流しに捨てるのはやめましょう。

◎捨て方は生ゴミと一緒に

①ほかのゴミと一緒に少しずつ燃やす。この場合、新聞紙や布切れにしみこませて燃やすとよいでしょう。

ついた物を入れたりすると、油が飛び散つてやけどをしたりし

ていなか葉っぱふたをになべに火です

天ぷら火災 予防メモ

⑤なんとといっても消火器があれば

②燃やさない時は、廃油をしみこませた新聞紙や布ぎれを生ゴミと一緒にポリ袋などに入れて、回収に出します。ここで注意してもらいたいのはグシヨグシヨになるくらい、たつぷり新聞紙などにしみこませることです。

しみこませる量が少ないうちよつとした火の気で発火する場合がありますから注意したいものです。また高温のまま捨てるのは禁物です。常温に冷えるまで待ち、ポリ袋に入れ、しっかりと口を閉じてから出すようにしましょう。

◎土の中に穴を掘って埋めるのも一つの好方法です。

③土の中に穴を掘って埋めるのも一つの好方法です。

油を長持ちさせる方法

一度使った油をなべに入れっぱなしにしておくのは、よくありません。すぐ消費します。ただ注意したいのは、油に直接噴射しないことです。油が飛び散つて思わぬやけどをすることがあります。一度なべの壁面にあててから、泡を入れるのが正しい使い方です。

④水をかけるのは、やめましょう。炎がよけい大きくなったり、燃えている油があふれ出て危険です。

また、なべが極端に過熱されると、中の油は自然に発火します。この時の温度を発火点といいますが、大豆油の場合摂氏四百四十六度です。——天ぷら油が温まるまでちよつとテレビを、などというのは文字どおり「火事のもと」です。主婦のみならず、くれぐれも注意して、おいしい料理を作りましょう。



野菜の天ぷら、魚のフライ、いため物の順で

新しい食用油で、最初から肉や魚のから揚げなどをするのは感心しません。肉や魚の成分がそのまま油に溶け出て、油が長持ちしません。その点、衣をつけたものから揚げに比べて油をいためる度は少ないといえます。

まず、野菜物の天ぷらなどから始め、次に魚や肉のフライ、そしてから揚げといった順序で油を使うと、それだけ効率がよくなります。また、揚げ物に使った油を、最後に野菜いためなどに使えば、捨てる油の量も少なくなるといえます。こうすれば、廃油処理の手間もかなり省けます。

河川などの汚れを防ぎ、省資源にも結びつく油の使い方は、料理をする上で欠かせないポイントの一つではないでしょうか。

今月のテーマ

広報ディスプレイセッション

町の知られざる文化人

今月は「町の知られざる文化人」と題して人形作り・絵馬作り・竹かご作り・機織などを行っている四人のお年寄りを広報モニターが訪問し、みなさんに紹介することにした

た。私たちの回りには多くの「知られざる文化人」がいると思います。これを機会に、あなたもそれらの人々を見直してみるのもよいことだと思います。

人形を作れるのは

最高の幸福

木島 角替わさん(88)

米寿を迎えたきわさんは、不自由な目ですが、余り布を利用して可愛らしい人形作りに励んでいます



提言者 桐山明子さん

私たちは日常の生活の中で、よく文化という言葉を目にしたり、耳にしたりします。ところで文化とは、一体何なのでしょう。私たちの生活の中から生まれたものそれらすべてが文化ではないでしょうか。人々は、長い歴史の中でさまざま

す。一針一針心を込めて縫い上げられる人形、一休さん・雪んこ・ねんねこぼんてん——箱の中にはたくさんの人形が並んでいます。五十個たまると浅間神社(富士宮市)に持って行き、交通安全の祈り

まな文化を作り出し、常に自分たちの生活をよりよいものにするために、努力をしてきました。私たちは自分の周囲にあるすべてのものから学び、内面的な精神の豊かさを大切にしていかなければ——と思います。

秋の深まりとともに、文化の日がやってきます。富士川にも、数多くのすぐれた文化人が在住しておりますが、みなさんに知られていない隠れた才能の持主がたくさん埋もれているように思われます。

とうをしてもらい、みなさんにもらっていただくそうです。人形作りながら「へいり(ぎれたぞうり)のように捨てられるかもしれないけど、大人から子どもまで喜んでもらっていつてくれます。

す。一般の人々の手によって生まれた文化、長い間つちかわれてきて見過ごしてしまいうようなものこそ、私たちの生活には、大切ではないでしょうか。

私にこれをやらせたら誰にも負けないというもの——たとえば「機織」「おかざりづくり」「手打そばづくり」など、いろいろなのがあります。富士川の隠れた文化人を一人でも多く掘り出し、見直そうではありませんか。

人形に願いをこめて



不平不満なんて考えないで無心になって人形を作れるのは、最高の幸福ですよ『もてあます日はなし趣味を追う老後』この句がとって『好きなんだよ』と、語っています。愛くるしい人形は、遠く海を越えてロサンゼルスにもいつていそうです。また今年の町文化祭ではきわさんが出品された人形が大変好評をほくしました。

なお、きわさんは、戦後の町連合婦人会の初代会長を務めたことでもあります。

絵馬があと三年で 十二支そろろう

坂下 池谷貞太郎さん(78)

毎年、八坂神社と宇多利神で初詣する人たちに渡される絵馬作りをしている池谷さんは、現在七十八歳です。七〇歳になった時「何か

子どもや嫁、孫、ひ孫の着物や帯を八〇歳になってから、すべて織り上げたことだそうです。機織の魅力をとげると「手足を動かせるから体にいいし、面白いわね」と語っていました。

また、とめさんは織物に対する研究にも熱心で、一年くらい前、みかん畑でみつけた黄色の花の草で布を染めたらいい色が出たと、タンヌの中からきれいに染められた布をだいたいそらに出してきてくれました。さらに、柄なども着る人の歳かっこうに合ったものを自分で考えて織るそうです。現在制作中のものは地味なものなので、嫁にあげようと考えているそうです。

このとめさんにも、現在大きな悩みの種があります。というのは昨年まであった清水市の糸屋がやめてしまい、糸を手入することが大変困難になってきたことだそうです。



80歳を過ぎてから数百反も

機織は楽しいし 健康にもよい

大代 佐野とめさん(89)

大代の佐野とめさんは、一七歳のころ、お母さんから教わった機織を、八九歳になった今も元気に続けています。八〇歳になったころからあまり野良にも出なくなり、現在は機織だけに専念し、糸のある

内は午前9時ごろから八時間くらい機を織り続ける毎日だそう。そのとめさんの自慢は、念願であった

使いやすさが一番



きないものか——と、今もって研究心の旺盛さが、竹かご作りの支えとなっているようです。

竹かご作りを 五〇年以上も

市場 小林松雄さん(68)

しい人によつて飾ってもらうんだよ」と、笑みをうかべながら話していました。

小林さんは竹かごを五十年以上も作っています。この道に入られた時は、道路工事事業・養蚕・みかんなどに使用するかごの需要も多かったのですが、時代の流れに応じて作る物も変わり、今は製紙工場で使うかごや豚の輸送用の大きなかご、農家で使う箕やしいかごが主となっているそうです。

材料の竹は四〜五年たった孟宗竹を11月ころ切り、竹やぶなどの湿気の多い所に保存しておいて使うそうです。仕事は、すべて手作業ですが、竹をへぐまでに全過程の半分の手間がかかるということです。小林さんの手にかかると、太い竹がいくつも割られ、たちまち薄くへがされていきます。それだけに、手はたくましく、タコができ、竹による傷も見られ、仕事の厳しさがうかがわれます。

小林さんは「あなたが作ったんでなければダメだよ」と言っていてくれる人の言葉が一番うれい——と語っていました。また、小林さん自身「竹の皮は虫が食わないから、建築材料にでも工夫で

昭和56年も春夏秋冬と季節が移り変わり、一年が暮れようとしています。

みかん農家の不況の中で経営を任せられ、家計薄と首っ引の一年であったような気がします。副業に始めたシイタケ栽培も昨年の冷夏が影響し、惨たんたる結果でした。

12月のテーマ 我が家の重大ニュース

そんな中で、家族みんなNHKの「明るい農村」に出たことは、我が家の明るいニュースの一つです。初めてのテレビ出演、照れくさくてカメラを真っ直ぐ見ることができませんでした。家族が仲良く、笑いながらスポーツをし、仕事に励む姿にどんなに苦しくても絶対に農業を捨てないという意欲を、そして専業農家としての誇りを感じました。また、義妹の結婚・長男の七歳祝などの嬉しいニュースもありました。平凡ではありますが、家族み

んながそろって健康であることが、何よりもまして、我が家の重大ニュースでした。さて、あなたにとって、今年昭和56年はどんな一年でしたでしょうか。

提言者 常盤 君子



12月のテーマ

我が家の重大ニュース

◎字 数

四百字づつ原稿用紙を必ず使用し、一枚以内にまとめてください。

◎締切り日

12月7日(月)まで

◎投稿先・問い合わせ先

富士川町岩淵二一番地 富士川町役場・企画開発課

電話 八一一一一

◎注意事項

匿名者の原稿は掲載できませんから、締切り日までに、原稿用紙に必ず住所・氏名・年齢を記して投稿してください。投稿数が多い場合は、掲載できないこともあります。なお、投稿された原稿はお返しいたしません。



心のこもった観音像を

ママさん記者の 役場訪問記

～環境衛生課編～

町の文化祭の初日にもかからず冷たい雨の降る11月2日に、私たちは環境衛生課を訪問し、池谷課長さんから同課の仕事についてお話をうかがいました。一階の左端にある同課は、私たち町民の健康管理と、明るく住みやすい生活環境を作り出すための仕事をされています。

では、みなさんに同課の仕事を簡単にまとめて紹介していくことにします。

予防係 子どもの予防接種や乳幼児の健康診断のための、いろいろな検査を行っています。毎月行っている乳幼児相談もこの係の仕事です。

環境衛生係 ゴミ・シ尿集取のための事務的な仕事や、犬の予防注射などに関する仕事を行っています。そして伝染病が発生した時の消毒作業などもこの係で行っています。

公害係 水質検査を毎月一回、町内十六カ所で行い、また大気汚染

については毎日一時間ごとにコンピュータによる自動測定をしています。この集計結果は、毎年一回「富士川町の環境」という本にまとめて発行しています。もし、この本がほしい方には、同課で配ります。

以上三つの係の中で、私たち主婦にとって、ゴミの問題が一番の関心事となりますので、さらにこれについて詳しくうかがってみます。

◎ゴミの集取は、先にも記したとおり同課で行っていますが、燃えるゴミの焼却は庵原三町の環境衛生組合(クリーンセンター)が行っています。問題点としては、燃えるゴミと燃えないゴミの分別がまだ徹底されていないことがあげられるそうです。このため、燃えるゴミの中にカンやビンなどが混入していて、機械の故障にも結びつき困ることです。

私たちはゴミを出す都度、ていねいに仕分けて責任ある出し方をしなければと、再認識させられました。みなさんもこの点注意しましょう。

◎粗大ゴミについては、従来どおり各自で分解し、それぞれの集収日に出してください。また、電気製品などは買い換える時、業者に引き取ってもらうように



左から松尾、桐山両モニターと池谷環境衛生課長

してほしいとのことです。これを町でやると、それだけ経費がかかります。私たちがしなければならないことは、その責任を果たすことで、それによる経費の節約をもっと必要な部分にあてられるのではないのでしょうか。

最後に、池谷課長さんのお話では、ゴミの方は社会的にも関心が高まってきて良くなっているが、これからは浄化槽の管理が問題になってくるので、それに力を入れていかなければならないとのことでした。この取材で、私たちの環境を守るために同課の仕事の大切さを改めて知り、これからゴミの出し方一つをとっても不心得なことではないと思えました。

広報モニター 松尾 保子

寒さに向かって親子でスポーツ

季節的に寒さに向かい、屋外ではもちろん、屋内でもただでさえ体がちぢこまりがちです。そんな時こそ、親子で健康的に暖をとりたいものです。

①寒い朝は軽いジョギング
近ごろは早朝6時はまだうす暗い、しかし町内の近しい目的地まで親子で歩調をそろえて、ワッセワッセ……。その間、約二十分〜三十分。暖かさが体の芯まで広がります。その結果、食事も排便も極めて順調で、快よい一日のスタートが切れます。

②いろいろ跳び
幅跳びのような運動は、家の中でも外でも簡単にできます。メージャーを置いたり、ゴムひもを利用して、目安をつけてやってみましょう。

③投げたり受けたり
ボールのような小さい動く物に適應した能力は、練習すると目にも進歩するものです。一日何回という目標をくって、続けてみましょう。

④転ったり回ったり
転がり方が上手な子は、骨折やけがも少なくすみます。子どもの時に、頭を下にすることや、体を丸くすること、前や後や横に転がることを楽しませてください。

⑤押し引き
力いっぱい押し引きしたりする運動は、全身運動で足腰のためにもよいものです。親子の心の交流の場に、厳しさを優しくさなどおまけて、子どもの体づくりをしてみたいものです。



納貯法施行30周年 記念式典が盛大に

記念式典が盛大に

清庵納貯蓄組合連合会(大竹義恵会長―清水市)では、10月20日、清水市の(株)鈴与講堂で納貯蓄組合法(納貯法)施行30周年の記念式典を開きました。納貯法は昭和26年に、法制化された民間団体として、地域に密着した納税の期限内完納をはかるために制定されたものです。ちなみに、富士川町の納貯蓄組合連合会は、現在組合数三百五十三、組合員数四千二百四十九人と、町内のはとんどの世帯が組合員に加入しており、このため、昭和55年度の町税収納率は九・六割と高率を示しています。

なお、同記念式典で功績が認められ、当町で表彰されたみなさんは次のとおりです。

- 清水地方税務推進協議会表彰
- 丸山 博康 木島
 - 齋藤 常正 相生町
 - 大村 益 上町
 - 望月 貞彦 坂下
 - 齋藤 平一 旭町
 - 齋藤 武 本通り一

- 清庵納貯蓄組合連合会長表彰
- 山本 一 本通り一
 - 池上 憲 本通り三
 - 宇佐美英三 堀の内
 - 神戸 秀臣 辻
 - 富士川町納貯蓄組合連合会
 - 清庵納貯蓄組合連合会長表彰
 - 渡辺 竜治 堺町

- 全国納貯蓄組合連合会長顕彰
- 齋藤 常正 相生町
 - 森中 重雄 新町本町
 - 大村 益 上町
 - 齋藤 武 本通り一
 - 神戸 秀臣 辻
- 静岡県納貯蓄組合連合会長表彰

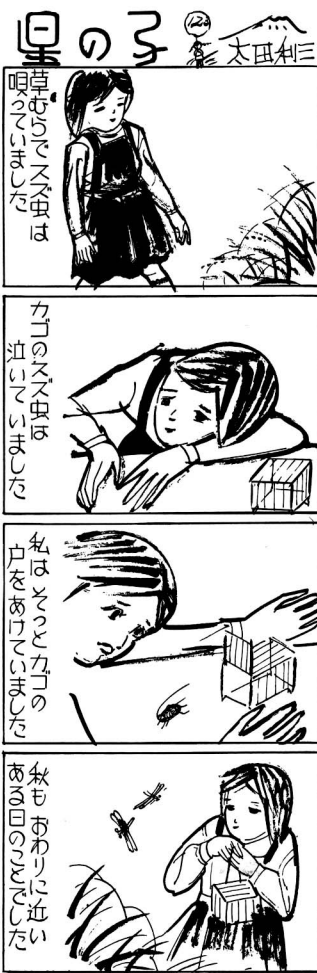
- 名古屋国税局長感謝状
- 奥村 院英 本通り三
 - 志村 真一 小池
 - 本通り三丁目納貯蓄組合

納税メモ
国民健康保険税 第四期分
納期限は11月30日
固定資産税 第四期分
納期限は12月25日

税の豆知識

(その4)

- 今月は所得控除についてお話ししてみます。
- 所得控除** 納税者に配偶者や扶養親族があるかどうか、病気や災害などによる出費があるかどうかなどの個人的な事情を考慮して、その納税者の実情に応じた税負担を求めめるために、所得金額から差し引くことになっているものです。
- 所得控除の種類と控除額**
- (1) 雑損控除 (損失額―保険などにより補てんされた額)―(合計所得金額×十分の一)
 - (2) 医療費控除 (支払った医療費―保険などで補てんされた額)―(合計所得金額×百分の五)または五万円のいずれか低い額(限度額二百万円)
 - (3) 社会保険料控除 支払った額
 - (4) 小規模企業共済など掛金控除 支払った額
 - (5) 生命保険料控除 イ支払った保険料が一万五千元までは―全額
ロ一万五千元を超え四万円までは―支払った保険料×二分の一七千五百円
ハ四万円を超え七万円までは―
 - (6) 障害者控除 障害者である納税義務者、控除対象配偶者および扶養親族一人につき―二十一万円(特別障害者については二十三万円)
 - (7) 高齢者控除 納税義務者が高齢者である場合には―二十一万円
 - (8) 寡婦控除 納税義務者が寡婦である場合には―三十一万円
 - (9) 配偶者控除 二十二万円(ただし、配偶者が七〇歳以上で障害者でない場合には―二十三万円)
 - (10) 扶養控除 扶養親族一人につき二十三万円(ただし、障害者でない七〇歳以上の扶養親族は一人につき二十三万円、納税義務者またはその配偶者の直系尊属で同居している七〇歳以上の扶養親族は一人につき二十六万円)
 - (11) 基礎控除 二十二万円
- 以上が各種所得控除のあらましです。来月は税率と税額控除についてお話しします。



戸籍の窓

56・10・1〜10・31届出

(敬称略)

おめでた

区名	出生児	保護者続柄
小山	久保田 智 哲雄	長男
相生町	斎藤 淳 仁	長男
〃	二木 友美 得夫	二女
〃	塩澤 美和 求	長女
〃	長谷川 哲也 清	長男
上町	天野 朋子 茂	二女

区名	氏名	年齢
堺町	久松 達典 弘政	長男
〃	鈴木 梓 正巳	長女
宮町	森 茂也 松雄	長男
小池	越高一騎 晴夫	長男
大楽窪	中山 典彦 勝	長男
本通一	荻澤 千絵 元信	三女
本通四	谷 由紀子 一郎	二女
東町一	曾我重希子 進	三女
〃	伊藤 美香 清司	二女
〃	菊池 郁仁 幸雄	二男
南町一	宇佐美裕司 喜明	二男

区名	氏名	年齢
相生町	三浦 きく	六六
〃	金田 七郎	八七
新町	久保田シマ	七二
新町本町	益木 こう	六一
〃	望月安太郎	八七
小池	加藤 信雄	五七
東町一	鈴木 たき	八六
日の出町日向	周造	六七
富士見町	國本 ヤヨ	七六
〃	石川 柳吉	九〇
大北町	望月 恒雄	六四

八幡町 稲葉 友美 勝己 二女

おかあさんの知恵袋

太陽の丘を訪ねて(その1)

去る9月17日、消費生活研究部

では、静岡県の誇る障害者総合訓練施設「太陽の丘」を視察させていただきました。後に富士、眼下に伊豆半島や駿河湾を望む沼津市宮本字元野の三万坪の敷地に数々の施設が建てられ、その名にふさわしい素晴らしい環境の中にありました。あいさつのおと、ビデオテープで施設の説明と注意事項を見職員が親切に案内してくださいました。大分県について日本てただ二つの施設とか。中でも省エネ対策として完備されたソーラシステムは、集熱器(コレクター)をサーピス棟・作業棟・身障棟の屋上に設置し、温水を作り、タンクに貯えて利用していますし、飲料用の湯は衛生上、別のパイプで温水の中を通し、沸騰させて使っているとのことでした。このための集熱器の数は一千二百二十八枚にもほり、暖房対象面積が七千七百九十一平方尺、冷房対象面積が二千九百二十一平方尺にもおよび、冷暖房費が三割少なくてすむというもので、眼を見張られました。ただ十五年をリサイクルに考えているとのこと、結果は十年たたなければ出ないそうです。

△文協俳句会



宮町 増井 冬木

文化の日受勲の髭もとのえて受勲の微不至は座央に文化の日

大北町 天野 たま

亡き僧の文字「惜命」や白扇に生きざまを遠期に説かれさわやか

南町 法月 幸子

組み替ふる膝の冷たき十三夜

石仏に櫃の匂ひの十三夜

南町 影島 智子

スナックに無月の席をぬくめをり赦免花咲かせ八丈島鳥渡る

南町 木伏 八子

皮下注射散らぬ腕もち稲を刈る

旭町 笠井みち子

丁重に過ぎて恐縮柿の礼

清水町 宇佐美裕子

夜や長き長き小説読み始め

南町 宇佐美幸子

短日を捜しものして過ぎにけり

南町 田辺つぎ子

古典本積み重ねある秋夜かな

南町 上野みつ子

秋の日や道の雀も一羽飛び

南町 上野 君江

蝶のごと咲きのぼるなり胡麻の花

本通り 古木喜久恵

母見舞ふことに追われて夏終る

南町 望月 洋子

御仏の山裾までの刈田かな

一里塚



11月も半ばを過ぎると、いよいよ冬のはじまり。例年より早い真冬の寒さに、弱音をはいてしまふ。静岡の温暖な気候でこれではと、なにやら先がおもいやられる。というのも、永年住みなれたこの富士川を離れることになったからだ。

この町に生まれ、育ち、学生生活でさえ、家を離れていたことはなく、勤めも富士川町、そうして二十数年。それが、あと数カ月で慣れぬ土地へ嫁いで行くのかと思うと、感傷的にもなってくる。

先日文化の日には、町制施行八〇周年を記念した行事が催された。町にとって、一つの節目を迎え、新たに発展していこうという時、私にとっても、新しい環境の中で生活が始まるうとしている。その記念に、広報ふじかわの縮刷版を持って行くことにする。

時間は、ひとの感情とは無関係に、否応なしに流れていく。その流れには、逆らうことはできないにしても、町の自然や、住む人の心は、変らないでいてほしい。目をやれば、雪化粧し始めた富士山その下を流れる富士川、あかく色づいたみかん畑、冬の景色はまたすばらしい。離れて行く者の身勝手、ふるさとは、常に美しくあ

編集後記

広報「ふじかわ」の縮刷版が、11月3日に発行された。さっそくページを開いてみると面白いもので、自分が編集した紙面については、いつ、どこで、どんな状態の時に取材やカメラのシャッターを切ったのかまで思い出される。歴代の編集担当者たちも同じようなことを言っている。今度、みんな集って、思い出話に花を咲かせる場を計画しようと思う。

丸山